

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町(小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成24年10月19日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化につなげる事を遵守すること。である通り、利用者様のありのままを受け入れ、最期までその人らしく生き抜くことを援助し、安らかな死をご家族様に見守られながら迎えられるように、職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者と家族は地元の住民であり、親の代から地元根付いており、地域とは密接な関係である。利用者も、ほぼ近隣の住民で占めている。併設に、小規模多機能型居宅介護事業を運営し、利用者・家族が気軽に行き来し、互いに馴染みの関係を築いている。利用者は、慣れ親しんだ生活を継続し、残存能力を発揮しながら、生き生きと過ごしている。管理者・職員は、利用者が最期まで、その人らしい暮らしができるように、また、重度化や終末期にも、誠意を持って支え、ありのままの生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」の理念のとおり、自然豊かな地域性を重視した立地条件のもとに作られた理念であり、その理念の持つ意味を、職員皆で理解し日々努力している	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念とし、利用者が家庭的な馴染みのある雰囲気の中で、慣れ親しんだ生活の継続を支援している。地域密着の意義をふまえ、職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が地元であるため、設立時より理解と協力を得られている。また利用者も半数が、三輪地区住民であるため顔なじみも多い。	代表者が自治会員として、地域の行事や防災訓練などに参加し、地元住民との協力関係を深めている。小中学生の体験学習を受け入れ、また、住民が花や野菜づくりを手伝うなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会の会合に於いて、ホームの取り組みや生活について、お知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームでの様子や行事をお知らせするとともに、ご家族や地域からの意見・要望等を聞き、より良いサービスが提供できるように努力している。	2ヶ月に1回会議を開催し、自治会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、家族が参加している。ホームの現状等を報告し、意見を交換している。委員からは、散歩道の整備、火災訓練の支援体制などの意見があり、実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等に於いて、助言・指導をいただいている。	日頃から、直接行政に出向き、困難事例や法改正などを相談し、指導を受けている。市主催の会議や研修会などでは、情報を交換して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の弊害を理解しており、鍵をかけることなく利用者の安全に十分気を付けながらケアをしている。	身体拘束ゼロを実践している。拘束の場面を想定した内部学習会を行っている。利用者の思いが実現できない縛りなどについても話し合い、抑圧感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしており、職員間の情報交換や入浴時の身体状況等により、虐待の早期発見に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の施設内研修を行っており、現在は成年後見制度を利用している方はいないが、必要時には提案ができるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、施設内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等を見ていただいてから契約となるが、契約の際には、書面での十分な説明と理解、納得を得て信頼関係を築くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及びご家族様が気楽に話しかける事が出来るような雰囲気を作るために、職員は常に声掛けや笑顔で対応し、素直な意見や要望を引き出せるように努めている。	家族が訪問することが多く、ゆっくり意見を聴く機会を設けている。職員は笑顔で対応し、意見・要望を引き出すようにしている。家族からは、「爪を切ってほしい」等の要望があり、速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者はほぼ毎日出勤しており、職員の意見にその都度対応している。また、毎月行う定例会議に於いて、運営に関する話し合いもなされている。	代表者と管理者が、全体会議やミーティングで職員と意見を交わしている。職員からは、制服着用の良否の検証や古い調理器具の更新などの提案があり、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が向上心を持てるようにキャリアパス制度を導入し資格や能力に応じて昇給できるようにしている。また、親睦会の場を設け職員同士が和やかに働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がさらにスキルアップできるように、一人一人の能力に合わせた研修を受ける機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や各会議等を通じて知り合った他施設の方の見学や情報交換ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んで来た人生や、サービス利用に至るまでの経過を理解し、本人の気持ちを受け止めて見守りながら信頼関係を気付けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞くと共に、こちらからもこまめに連絡をとり、気兼ねなく不安や要望も話していただけるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の実情をもとに、今のニーズを見極め、他のサービス利用も視野に入れて柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側」、「介護される側」という壁を作らず、一緒に生活をしている家族として共に楽しく、安心した生活をしていただけるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら本人との絆をより深めるように支援し、スタッフと家族が協力しあえる関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの人や友人たちが疎遠になってしまうことなく、交流をつづけていることができるように、気軽に事業所を訪問してもらえる雰囲気作りをしている。また手紙や電話でも支援をしている。	親戚、友人や知人の訪問が多く、気軽に、ゆっくり過ごせるよう対応をし、また、再度の訪問を促している。馴染みの美容院や歯科医院へは、家族に協力を依頼し、継続的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者の性格や周囲との関わり方を把握して、孤立やトラブルを防ぐようにしている。利用者同士が共に穏やかに過ごせるように、スタッフが仲介役になる等の配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人と家族の状況、これまでの経過や必要な情報を提供し、相談等にも応じながら、サービス終了後も変わらず良好な関係を続けていけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聴き、その人の思いや希望を理解できるようにしている。また、それを実現するためにはどうすれば良いのか、スタッフ全員で話し合って工夫ができるように努めている。	会話の中で、趣味、自慢、希望などの気持ちを把握している。また、生活歴や楽しかった思い出等を、基本情報で把握し、その人らしい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちや家庭環境や職歴を踏まえて一人一人の生活史を作成することにより、これまでの暮らしを把握し、その人らしい毎日がおくれるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや心身状態を把握すると共に、その人にできること、できないことを見極めて、適切なケアを提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやサービス担当者会議において話し合うようにしている。本人のニーズを把握しながら、よりよく暮らすための介護計画が作成できるように努めている。	ケース会議で、介護記録をもとに、職員の意見や、利用者、家族の意見を計画に反映している。状態に変化があれば、医師など関係者と話し合い、その人らしい暮らしが継続できるように見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気付いたことを個別記録に記入し、ケアの実践や本人の様子の変化をスタッフ同士で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに合わせて、臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有意義に活用しながら、一人一人が社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように、事業所全体で工夫していく必要があると考えられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を汲み、安心して適切な医療を受けてもらえるように、かかりつけ医との連携を大切にしている。	契約時に、協力医について、利用者、家族に説明している、基本的には、利用前のかかりつけ医を継続している。協力医による、月に2回の往診がある。かかりつけ医との連携を密にし、受診には、看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の管理者が看護師であるため、利用者のちょっとした変化や体調についても相談しやすい。一人一人が適切な看護が受けられるように支援し、日々の介護においても本人の状態に合わせて柔軟な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院関係者にこれまでの既往や本人に必要なケアの情報提供をしている。また、退院後も安心して過ごすための環境整備ができるように情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の思いをしっかりと汲み、事業所全体で方針を共有し、最期までその人らしく穏やかに過ごせる様に支援することを心掛けている。当事業所では、かかりつけ医との連携をとりながら、終末期ケアも行っている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を、利用者、家族に説明し、同意を得ている。状況の変化に応じ、医師と関係者で話し合い、方針を共有している。「看取り指針」をもとに終末期のケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、また、その研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害が起きた時に備え、地域の方も一緒に避難訓練を行うようにしている。一人一人の利用者に合わせた誘導の方法をスタッフ全員が身につけるようにしている。	消防署指導の下、年2回の火災訓練を実施し、地域の住民も避難訓練に協力している。消火器、連絡網、避難誘導などを訓練している。備蓄も整っている。地震を想定した訓練は、行っていない。	地震を想定した訓練を、運営推進会議に提案し、地域の協力を得て実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の一人一人の多様な生活文化、価値観を尊重しながら、スタッフの考え方や経験を押しつけない介護、援助をしている。	接遇についての内部研修を行い、人格を尊重し、プライドを傷つけることのない、対応をしている。とくに、言葉かけや態度で、不快感のないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の細やかな自己決定を優先し、利用者のペースに添った援助を行っている。本人が主体性をもって生活できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活習慣を可能な限り尊重し、柔軟な支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりと継続性を大切に、その人の好みや意向に応じた支援ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	暮らし全体の中でも重要な食事を充実したものにするために、一人一人の好みを把握し、見た目も楽しめるように配慮している。利用者も一緒に下ごしらえをしたり、食器を拭く等の片付けをしていただいている。	旬の野菜を食材とし、利用者が下ごしらえを手伝ったり、準備や片づけも担っている。職員も同じ食事を摂り、料理方法などで話題を盛り上げ、ゆったりと時間をかけ、食事を楽しんでもらえるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、日々の健康状態を把握し、体調や運動量など個々に応じた食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後だけではなく、定期的な歯科メンテナンスを受けることにより、口腔内の清潔保持ができるようにしている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握すると共に必要な介助を見極め、排泄の自立に向けて支援している。また、ポータブルトイレ等を使用し、本人に合った方法を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄につなげ、自立を支援している。個々の頻度に応じ、ポータブルトイレを活用したり、それぞれの状態に合った方法で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の毎日の排便の有無や量を確認し便秘を予防できるようにしている。便秘がちな利用者に対しては、食物繊維の摂取やこまめな水分補給をしてもらえるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。	入浴は、週に3回を基本としているが、利用者の状態に合わせ、シャワー浴、足浴など柔軟に支援している。重度の人には、浴室を適温にして、快適なシャワー浴で満足感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の不安を取り除き、生活環境を整えて、安眠することができるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について理解し、飲み忘れや誤薬がないように確認しつつ、本人の状態の変化等にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、花の水やり、日めくりカレンダーをめくる等の役割をもって、意欲的に生活することができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり花見に出かけたりと、外での季節感を味わうことができるように活動している。スタッフが必ず付き添い、安全に気をつけながら利用者の希望に応えられるようにしている。	近隣の神社や地蔵さんをめぐり、日々散歩している。散歩が無理な人には外気浴など、できる限り外に出て、季節感を味わえるように支援をしている。家族の協力で、買い物や花見など、遠方に出かけている。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者には、家族の理解のもと、自分でお金を管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は家族や大切な人との関係を繋ぐ重要な手段として、個人のプライバシーに配慮しながら、利用者が自由に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を活かし、利用者一人一人の感覚や価値観を大切にしながら、心が安らぐような雰囲気大切にしている。	共用の場からは、窓越しに季節を感じるができる。居間もベランダも広く、寛げる空間である。廊下は、車椅子の往来に十分な幅を確保し、安全である。ソファでゆったり、会話を楽しみ、対面式の台所から調理の音や香りが漂い、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の過ごし方の違いを理解し、利用者が互いにストレスを感じることがないように配慮している。一人になれるスペースを確保したり、気の合う者同士で過ごせるように、家具の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のプライバシーを守りながら、その人らしく落ち着いて過ごすことができるように、馴染みのものや写真を飾ったりする等の工夫をしている。	ベッド、整理タンスは事業所で設置し、小物類を整理整頓し、空間を広く確保している。衣替えは、本人と家族で行っている。家族の写真、使い慣れた鏡、作品などを配置し、心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、全面バリアフリーとなっている。手すりに沿って安全に歩行できるようにしている。また、車椅子の移動でも不便がない広さを確保している。各部屋からリビングまでは廊下が直通となっており、場所に迷うことがないように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成24年10月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境豊かな立地に恵まれ、太陽の光、新鮮な空気四季の風をありのままに感じ心地良い生活を送って頂けるよう心がけている。理念は入口横の目立つ所に掲げ皆で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際近所の方々と挨拶を交わし、時には立ち話などする。また、ベランダ越しに登下校の学生さん達が挨拶をして下さり、利用者の方々も喜んでいる。近所の方より問い合わせ、見学等申し出ある時何時でも応じられるようしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーを守り出来る範囲で、施設の説明、どのような方が利用しているか、認知症について、問い合わせ、相談など受けた場合速やかな対応をし、見学も何時でも出来るようにしている。中学生の職場体験なども受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた意見を、スタッフ全員で共有し利用者、家族の思いを汲み取り、サービス計画に反映させより良いケアができるよう役立っている。また、自治会長様のご出席もいただき、地域の方々にも、ご理解ご協力いただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、連絡を密に取り合いご指導いただき、協力関係を築く様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、施設内は施錠はしておらず、安全に気を付け、自由に庭に出て、花などを見たり触れたりできる様にしている。身体拘束による弊害やその人の尊厳を心得、不穏時は、側で寄り添い見守るケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者指導のもと高齢者虐待に取り組んでおり、スタッフ同士小さな傷、様子の変化など、情報の共有をし異常があればすぐ連絡する、また、あまり気づかない会話の中で、言葉の暴力とも常に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、当ホームに成年後見人制度を利用されている方がみえその際施設内研修を行い、スタッフは理解している。現在は利用する方は見えないが、利用の必要性が有る方がいたら支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書により事業所の考え方を説明し納得いただいている。また、事業所で可能な事、不可能な事生活して行く上でリスク等に付いても説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での家族からの意見要望、家族の面会時の話、要望などに耳を傾る。また、家族の面会時に話しやすい雰囲気を作り意見要望を聞き出す。利用者とはコミュニケーションの場を利用し意見などを聞ける場をもつ。意見箱の設置		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者管理者は毎日出勤しており、職員の意見に柔軟に対処している。また、定期的にカンファレンスがありその際、スタッフ同士や管理者に対し意見が言える場がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者管理者は、職員の意見や要望に、柔軟に対処し職場環境を整え、働きやすい環境で仕事ができるように配慮している。スタッフ一人ひとりが、向上心を持ち働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、一人ひとりのレベルにあった研修が出来る様勤務調整など配慮、研修に出たものは後日研修内容を講義し、皆が勉強できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な研修会や会合で、お互いの施設の活動などの話を聞いたりして施設に持ち帰り、カンファレンスの際報告会を行い、参考にしたり、取り入れたりしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活状況、生活歴の把握に勤め、要望や不安等に耳を傾け、コミュニケーションを取りながら信頼関係を作る。常にだれかが側で寄り添い安心できるよう見守っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を作り、今までの苦労を労い、困っていたことや不安、要望に耳を傾け、コミュニケーションを取り良い関係が作られるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の状況や思いを聞き、何が必要か見極め、当事業所で支援できるのか、他のサービスの情報も含め検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や悲しみ喜びを、共感し共に生活して行くという認識のもと、利用者が楽しく、心穏やかに日々過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、近況報告をさせていただき、利用者の生活の様子をお知らせしている。。毎月「小町たより」を発行し、共に支援しているという思いを感じていただくように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のご協力をいただき、今までの行きつけの美容院、病院、歯科医院などに行かれる方や、自宅で使用していた自分にとって使いやすい物を持ってみえる方もいます。また、家族の許可をえて、ご近所のお友達が面会に来られる事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や能力を把握することにより、その人に合った活動の場をもち、お互い出来る事、出来ない事を、自ら手を貸し合って行って行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	盆や一周忌には、はがき等で故人を偲び、街やスーパーでご家族と偶然お会いしても気軽に声を掛けられる関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの暮らしぶりを把握して、どんな場合でも本人の意見を聞き本人の意向に沿った支援をしている。また、困難場合、スタッフで話し合い本人が望んでいるであろう支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートが作成してありそれに基づいて本人が今まで歩んでこられた人生の思い出をより深く理解共有できる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが日々どのような生活を送っているか、心身の状態の変化はないか、スタッフ同士情報を共有し支援している。また、その方の好きな事、、出来る事なども、見守りの中で気付きそれを伸ばせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われるケアカンファレンスで本人、家族の意見の反映された介護計画を職員で話し合い、モニタリングする。それぞれの色々な意見アイデアを出し合い、まとめ、統一されたケアが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルが作成してあり、利用者の身体状況、健康管理、その日々の暮らしぶりなどが記載されており、職員間での情報の共有、また、ケアの見直し、評価に利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽減するため、医療への受診の付添、個人個人の体調や疾患に合った食事の提供、買い物など支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活出来るよう自治会などに出席し、ご理解ご協力いただいている。また、月2回ほど、地域ボランティアの方々や唄や踊りを披露して下さり、利用者の方々も参加され喜んでいいる。小、中学校の方々とも交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入所前の主治医を継続し、必要に応じ適切な診療科に、受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、常に状態の変化に気を配り、些細な事でも、看護師に連絡相談する体制が24時間整っていて、利用者、職員共に安心して暮らすことができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院する際には、看護師が必ず付き添い必要な情報提供を行っている。入院中も、病院や家族との連絡を密に取り状態の把握に努め、早期退院に向け、関係者との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に「看取りケア」に付いて、説明している。重症化、終末期の在り方に付いて、ご本人家族の方の意向を重視し、事業所として可能な限り、医療関係、家族の協力を得て、その方らしく最後まで、生き抜く事ができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」が作成されており、それに基づき勉強会を行っている。看護師とも連絡体制が出来てるため、速やかに適切な指示が受けられる様になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、内1回は夜間を想定し行っている。その都度、消火器、避難通路、報知機に付いて、職員全員で確認している。また、災害時地域の方々のご協力を頂けるよう、自治会とも連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが、利用者の人格を尊重しプライバシーを守らなくてはいけない事を自覚し心掛けて介護にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、自己決定が出来るよう、環境、条件を整備するよう努力している。会話の中でも、簡単に答えが出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの日々の暮らしの流れは出来ており職員一人ひとりが把握している。強制しそのリズムを壊すことは無く、その人の思うように生活出来るよう見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時々季節に合った洋服を、タンスの中に整えて置き本人がそこから自由に取り出せるように配慮している。気に入った美容院へ行かれる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を貼りだしている。なるべく旬の物を献立に入れるよう心掛けている。行事や誕生日には、特に食べたい物を尋ねメニューを立てる。施設の畑で採れたての野菜をいただき、豆などのすじ取り、種取り、皮むきなどしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立づくりを心がけている一人ひとり食事形態、食べられる量が違っており、その人に合った食事を提供している。また、食事が食べられない方には、流動食などで栄養を補ったり水分補給をこまめに行うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	衛生士により、口腔ケアを行っていただき指導いただいている。毎食後、口腔ケアを行うよう支援している。また、ベット上生活の方も、誤嚥や感染の予防のため職員が、その方に合ったケアの方法で支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その方に合った排泄方法を検討する。声掛けし自信を持っていただくよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食物繊維の摂取やおやつ時には、牛乳を取っていただいたり、身体をなるべく動かすことなど声掛けし支援している。また、適度の水分補給もしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきに入浴が出来るようにしており、安全安楽に気持ち良く入浴していただけるように援助している。また、一人一人の体調に合わせて臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し必要な睡眠や休息が出来るよう支援しており、居室や寝具など何時でも気持ち良く使用できるよう整備している。また、夜間、安眠出来るよう日中の活動も体を使う事が多く出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自カルテに「お薬の説明書」が入っており職員が確認している。服薬時、〇〇さんと声掛けし確認し服薬して頂き、その後も、服薬の確認をしている。薬が変わった際は、看護師と連絡を取り合い、変化が無いか確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、お彼岸、お正月のおせちなどその時々食事の工夫や、リクリエーションでは、塗り絵、計算ドリル、散歩など一人一人の能力や好みに合わせ楽しく過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換、社会性を保つため、毎日散歩に出かけ四季の移り変わりなど感じて頂き、地域の方との気軽な挨拶を交わしている。できるだけ家族と共に過ごせる時間をとれるように、面会や外出にご協力をいただいている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じ、家族のご理解のもと所持管理している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人が希望されれば、何時でも掛ける事が出来るよう支援している。手紙も自由にやり取りでき、職員が投函し援助する事もある。暑中見舞い、年賀状も工夫し作製して家族などにとどくよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の整備は、施設の理念の実践に多くかかわる事なので日頃職員皆気を付けており、四季の花などリピンクや玄関などに生けて四季を感じて頂けるよう支援している。散歩で摘んで来た花も生けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん、気に入った場所やイスが有り、時にお互い会話したい時は側に行ったり、一人でいたい時には、一人でくつろいでおられたり皆さん思い思いに過ごされているので見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人、家族と相談し、本人の慣れ親しんだ物など居室に配置し心地良く安心して生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線、視野に入る所に日常使用する物を配置する。夜間、足元など暗くない、通路に物を置かない、居室は、本人の使用しやすいよう配置し無理なく活動出来るよう支援している。		